

協議記録 教科情報の指導に関する各校の取り組み

富山県立桜井高等学校

八幡 久康

はじめに

第 53 回富山県高等学校教育研究発表大会情報部会において、表題をテーマにした班別協議が行なわれました。それぞれの班では、情報 A から B、C に移行する際の問題点や、授業の進め方に関する問題及び提案、情報担当者としての悩みなど、さまざまな分野にわたり活発に話し合われました。

地区	学校	参加数	全体会発表者
新川・特殊	泊、入善、桜井、魚津、滑川、雄山、上市	7	入善高校 板川教諭
富山	八尾、富山西、富山中部、富山北部、富山いずみ、富山東、富山商、中央農、水橋、呉羽、雄峰	11	富山いずみ高校 林教諭
高岡	小杉、大門、新湊、高岡、高岡西、伏木、高岡商、志貴野、氷見、有磯	10	氷見高校 室田教諭
砺波・私立	砺波、南砺総合福野、南砺総合平、南砺総合井波、南砺総合福光、石動、福岡、となみ野、高岡高陵	7	砺波高校 守田教諭

班別協議内容

新川・特殊地区

今年度情報 A から情報 B に変更した高校や、来年度情報 B・C へと移行する学校があり、それぞれの学校での取り組みについて話し合われました。

その中で多くの学校が担当者 1 人ないし 2 人で授業を受け持っており、人手が足りなく準備が大変であるという共通の話題がでました。

情報 B を実施している学校からは、準備の大変さは各校まちまちであるが、TT であればラフな授業案でも担当者同士の打ち合わせがうまく行っていればそれほど負担ではない。しかし 1 人でクラスを担当するようになってからは、授業をスムーズに進めるために細密な計画を立てなければならない。立てたところで突発的な故障など予期せぬことが起こり、対応に追われるうち時間だけが経過していく。という意見が出されました。また別の学校からは、担当の教員同士の打ち合わせの時間がなかなか取れないといった悩みや、生徒のスキルの差が激しい学校では、個別の課題を与えているが指導が大変であるといった例など、多くの学校が共通にもっている問題点があげられました。

その中で特に生徒の実習に対する取り組みに対して、プレゼンテーションをグループで実施させようとしたが、そのグループの中でもスキルの差があり、ほとんどできない子は他人に頼ってしまうという事例が紹介されました。どの学校でも共通の経験があるようでしたが、プレゼンテーションなどは、なるべくグループにしないで個人でできる「自己紹介」的なものであれば早い学期中に取り組み、他人を頼るという姿勢も少なくなるのではという意見が出ました。

また、また提出期限を守らないことが当たり前になっているという学校の事例に対しては、1 学期中にテストと提出課題の配点や遅れた場合のペナルティを提示しており、厳しく運用することで少なくなったという事例も紹介されました。その他の話題としては、情報の教科担当ということで多雑多な仕事（サーバー

管理、トラブル対処、ネットワーク管理など)をまかされることが多く大変であるといった話や、教材を準備してインターネットなどで探しているが、ぴったりマッチしたものがなく、準備に時間がかかるなどの例も紹介されました。

富山地区

- モラルの指導に行き詰まりを感じる。現実、掲示板への書き込みの中に誹謗中傷に相当するものがあり、掲示板閉鎖を余儀なくされた学校もある。生徒は教科書では理解しているかもしれないが、実際の行動となると本当にわかっているのか疑問に思う。この指導はどうすればよいか。
- 携帯電話は高校生のほとんどが持っているにもかかわらず、授業で携帯電話について取り上げることが少ない。携帯電話のモラルの問題も指導しなければならないと感ずる。
- 著作権について、特にインターネット等を利用して調査し発表させるような場合、どこまでならOKなのかわからなくなる。教師自身がうやむやになっている感がする。
- 生徒間の能力の格差については、どの学校も問題点に感じている。学校によってはかなりの格差がある。とりあえずできない生徒にあわせた授業をおこなっている。
- 教員配置の問題。情報の授業はまだ始まって間もないため、手探りで授業実践をしており、負担は大きい。また、生徒の能力差についても複数教諭で授業ができる場合はまだ良いが、1人だとなかなか実習が進まない。情報科教諭は学校の情報施設の管理を担当させられる場合が多いが、大きな負担となる。特に最近個人情報等の管理に厳格化が求められ、さらなる負担となる。

高岡地区

■各学校における取り組み、問題点・工夫 情報Aが2校、B2校、C4校、代替教科の学校が2校である。内容の設定は各学校で工夫して行っている。具体的には、それぞれの課題でパワーポイントを用いたプレゼンテーション実習が最も多かった。問題点としては、情報機器を扱うスキルに差があるため、ワープロや表計算では一斉授業では進捗が難しいということが第1に挙げられた。また、情報でどのような内容でどのような目的で授業を進めるか苦慮するという意見もみられた。これは班別の協議にも採り上げられた。

■班別協議 授業をどうするかという話の中で、教科「情報」の目標は3つの観点である「情報活用の実践力」「情報の科学的理解」「情報社会に参画する態度」に即して進めていくべきであり、スキルはゴールではないという話題が出された。また、携帯電話についても情報であつた方がよいのではないかという意見が提案された。

砺波地区・私立

各校から授業の取り組みについて話題提供があり、問題点やそれに対する工夫、対策なども合わせて報告された。科目は違うものの、どの先生方も実社会に出て役立つように情報モラルや情報技術を活用するための知識・技能を身につけさせたい。自分の考えをまとめ人前でわかりやすく伝えることができる能力と態度を育てたい、と工夫と努力を重ねておられた。問題点として生徒間の技能差があげられ、生徒同士教え合うようにさせたり放課後に情報処理室を活用させたりして対応しておられたが、一方では、それでも進度の差は埋まらず課題のできた者から自由活動させるのも仕方がないのではないかという意見も出された。各校の生徒の能力差もあるが、「情報」担当教員の負担についても話題が及んだ。情報機器の管理、ネットワーク管理、トラブル対応、情報漏洩防止対策など過重負担を強いられ、教材研究する時間など毛頭ない。我々自身がもっと声を大にして人員配置について改善要求して行かなくてはいけないという意見があり、それは参加教員の一致した思いであった。